

+幸せを探すあなたへ

理念と争いの怖いわな



私は 1943 年 12 月 1 日
アウシュビッツ地域の
部隊を指揮した。私が
判断するには、少なく
とも 250 万人のユダヤ
人がそこで虐殺されて、
50 万人は飢えと病気で

死んで、約 300 万人が死んでいったらう。私は、
また 1944 年夏にハンガリーのユダヤ人 40 万人を処
刑したことがある」(アウシュビッツ、ユダヤ人虐殺
責任者、アイヒマンの証言)。神様は世界の国々を生
かすために救い主メシヤを送ると計画され、イスラ
エルを選ばれました。しかし、彼らは自分たちは、
神様に唯一選択された選民だと思って、他の民族の
人々は、異邦人として扱って、動物と同じように思
っていました。神様が約束された救い主イエス・キ
リストがこの世に来られた時、むしろ彼を迫害して
十字架に釘づけて殺しました。その時、ユダヤ人た
ちがした告白が聖書に出ています。「すると、民衆は
みな答えて言った。『その人の血は、私たちや子ども
たちの上にかかってもいい』」(マタイの福音書
27:25) 排他的民族主義理念から始まったこの小さい
告白が、その後 1948 年イスラエルが独立するまでの
2 千年間、血の歴史を呼び起こしたのでした。458
年間(B.C.63 ~ A.D.395)のローマ帝国による支配を
はじめ、1933 年から 1945 年まで 3 段階にわたる 600
万人のユダヤ人虐殺に至るまで、選民思想(民族主
義)という理念がもたらした結果は、あまりにもぞっ
とするものです。アメリカのワシントンにあるホロ
コースト(Holocaust)博物館の入口にはこのように
書かれています。

**“Think about what You saw.”(あなたが見たことを
考えなさい!)**

今、私たちは排他的理念で争いの危機の中に置かれ
ています。ノ前大統領の残念な逝去の知らせとともに、
礼儀的な弔問まで拒否された保守と進歩の葛藤、
左派と右派の葛藤、北朝鮮の 2 次核実験で作られて

いる南北間の葛藤と危機...。21 世紀を生きていく私
たちの排他的理念と思想が変わらないかぎり、イス
ラエルが受けた苦しみの歴史が、これ以上、他人の
歴史だと言っていられないようになります。21 世紀
は、これ以上、親米も反米ありません。親北朝鮮
も反北朝鮮も、左派も右派も越えなければなりませ
ん。あくまでも、グローバル時代のパートナーであ
るだけです。もし私たちが互いに理解して、受け入
れて、超越できないならば、私たちに残っているの
は、争いと苦しみだけです。私たちは一つの船に乗
っています。船が破船すれば、いっしょに死ぬので
す。その苦しきは、結局、あなたのもので、私の
ものでもなく、私たちみんなのもので、次世代の持
ち分なのです。今は、左右、与党野党、東西、南北
が共に理念を越えて、21 世紀を見通しながら、何が
利益で、何が損であり、国家と次世代にどんな益が
あるのかを冷徹に計算しながら、心をあわせて、聖
書が話す十字架の愛が何なのかを深く考えてみる時
です。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほど
に、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひと
りとして滅びることなく、永遠のいのちを持つため
である」(ヨハネの福音書 3:16)



国と民族のための祈り

神様に感謝します。今日、国を混乱させるほどの排他
的的理念と争いが崩れるようにしてください。むしろ、
この困難と混乱が、神様の隠された祝福を発見する機
会となるようにしてください。この国にあるすべての
争いの勢力が縛られますように。この国の長い間ある
地域間の争いが縛られますように。サタンが活用する
左派、右派の争いが縛られる時間になるようにしてく
ださい。将来の重要な問題、争いが、イエスの御名で
縛られますように。それより重要な、私たちの現場の
争いと不信仰と、すべての戦いが縛られますように。
それで福音で世界を生かす祝福のモデルになる国とな
らせてください。イエス・キリストの御名によってお
祈りします。アーメン

長老伝道企画時代 出会いの祝福

チャーチルとフレミングの出会い アメリカのある田舎で、金持ちの家の少年が池に落ちて、ほとんど死にそうになっていた時、貧しい家の水泳が上手な少年が彼を助けました。その後、二人は親しい友だちになったのですが、ある日、金持ちの家の少年が、その友だちに言いました。「お前の願いを一つだけ言ってくれないか。お前の願いを聞きたいんだ!」すると、貧しい家の友だちが答えるのに、「ぼくの夢は、ロンドンに行って医学を勉強することだよ!」その金持ちの家の少年は、友だちの願いを自分のお父さんに話して、ついにフレミングは、友だちのお父さんの助けで、ロンドンで医学の勉強をして医者になったのでした。彼がまさにペニシリンを発見したアレクサンダー・フレミングです。ところで、ペニシリンを発見してまもなく、フレミングは、その金持ちの家の友だちが肺炎で危篤の状態に陥ったという知らせを聞きました。フレミングは、ペニシリンを持って急いで走って行って、その友だちをかうじて助けたのですが、そのように生き返った友だちが、まさに第2次世界大戦の英雄ウィンストン・チャーチルです。どんな出会いかによって、全てのことが変わります。

重職者が味わわなければならない出会いの祝福 出会いの祝福は、私の生活の状態、霊的な状態によって変わります。そして、出会いを通して祝福された神様の計画が成されま。神様が重職者に向かって準備しておかれた出会いの祝福は何でしょうか。

重職者が味わわなければならない五つの出会いの祝福があります。地教会堂を通して正しい弟子にあって立てることです。現場で今日だけでなく、未来を見ながら、弟子を見つけて立てることです。パウロの宣教旅行の目標の中の目標がまさにこれでした。専門分野の現場、特殊な現場に、未来の重職者、弟子を見つけて立てることです。例えば、医者になるレムナントに、あなたがこれから医者になる日、伝道者として、重職者として任命されて、その現場で祈りながら弟子を集めるようにしなさいという使命を植え付けるのです。海外で弟子になれる者を見つけて、重職者として立てることです。これから長老が海外に出て行けば、その地域の指導者や国会議員にあって、そちらの人材を発掘して勉強できるように助けて、エリートとして育てることができる海外エリート家族とする出会いの祝福を味わわなければならないでしょう。

「しかし、主はこう言われた。『行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運び、わたしの選びの器です』(使徒の働き 9:15)



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子どもの五つの確信

救いの確信: イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)

祈り答えの確信: 神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)

導きの確信: 神様は聖霊であなただの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)

救いの確信: あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)

勝利の確信: 救われたあなたは、世の中に勝れたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)



神様の子どもの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。

毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

争いとつばやきから 抜け出さない

まず錯覚を捨てるべきです 私たちは人ですから、うまくいけばうれいいます。しかし、うまくいくことがうまくいくべきで、無条件にうまくいってはいけません。また、人々は不利な状況がくれば大変だと思えます。しかし、不利な状況は、むしろ良い機会です。初代教会の不利な状況のために、本当に頭が悪い人々、商売人、政治屋はみな逃げました。商売人、政治屋では、世界福音化ができないのです。不利な状況を通して、神様は「ただ福音、ただイエス、ただ聖霊、ただ証人」になった弟子たちを呼んで集められたのです。それで、神様の子どもはいくつかの言葉は、あえて言う必要がありません。「私はこのごろ、信仰生活がよくできないのですが、どうすれば良いのでしょうか」「私は信仰がありません」これは錯覚です。神様は皆さんを完璧に知って、証人として呼ばれました。ある人は私はできないと言うのですが、私がするのはありません。私たちは神様の子どもで、祝福の証人です。ひょっとして、私と私の家系に問題や困難があるならば、それは問題でなく証拠です。皆さんが一生の間、何の問題もないならば、証拠もないでしょう。だから、この錯覚から、はやく出てしまわなければなりません。

そして必ず目が開かれなければなりません 福音の中には、全てのものが全部入っています。それで、神様の最も大きい計画は、この福音を伝える伝道です。伝道は霊的な目を開いて、人を生かす道と門を見ることです。神様のみことばは、神様が願われる道を行くことが出来る略図になります。そして、祈りはその道を行くことができる道具です。私たちが生涯を歩みながら、結局、残るものは、いのちの運動です。それでなくては、結局、無駄なことになるのです。それで、伝道は全てなのです。

サタンが掘っておいた争いとつばやきのわなを注意しなければなりません ところで、人々はなぜ争ってつばやくのでしょうか。クリスチャンが、答えを受けられなければ、争うしかありません。親子の間も、友だちの間も、夫婦間でも争います。聖書では、これが最も危険なことだとおっしゃっています。また、勝とうとすれば、争わないようにと言われていきます。信仰の本質は神様に任せることで、祈ることです。それなら、私たちはこの争いのわなからどのように抜け出せるのでしょうか。最初に、逆に見なければなりません。私の過去を見ながら、逆に見なければなりません。神様はイスラエルの民を手づらでエジプト軍隊に勝つようにされて、荒野を行く間、火の柱、雲の柱で導かれました。神様と一緒に、私たちの前にどんな困難が来ているとしても勝てます。二つ目、真っ直ぐに見なければならぬものがあります。祈りは科学です。問題は答えです。危機は機会です。これは言葉の遊びでなく事実です。私たちに必要なことは信仰です。イエス・キリストの御名で祈れば良いのです。三つ目、争うのが問題でなく、未来を置いて遠く見なければなりません。これから荒野をすぎていくべきで、カナンに入国しなければならず、カナンの地に行って世界福音化をしなければなりません。それなら、私たちの前に置かれた問題は、神様が遠い未来を置いて私たちを訓練されることです。心配するのではなく、むしろ、全部、祝福の機会にしなければなりません。私たちはすでに悪魔の手から、偶像崇拜の呪いから、精神問題、肉的問題、子ども(次世代)の問題、来世(地獄)問題から抜け出す道(イエス・キリスト)と伝道の祝福を知っています。キリストによって、すべての呪いが終わりました。今でも聖霊で働いておられます。神様の力ですべてのことが可能です。神様は私たちをこの働きに祝福の証人として呼ばれました。あなたはすべての祝福をみな受けました。これから味わうだけで良いのです。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

1日(月)

ヨセフの確信(創世記 45:1~5)

揺れることもせず、巻きこまれることもせず、変わらない神様の子どもとして立てられる奥義が、普段の時、みことばと心に決めた祈りの中にあります。この世のどんなことも、神様がくださったみことばと夢を防ぐことはできません。今日のみことばを握って、常に祈る生活を送る時、答えと征服の位置に立つようになります。

2日(火)

恐れてはいけません、パウロ!

(使徒 27:10~25)

どんな強風が吹いてきても、神様はご自分の民をそのまま放置されず、救われた者は、どんな場合も失敗しません。みことばを聞きながら、福音と私にくださったみことばを整理する時、未来が見えて、どんな暴風の中でも、一時代の答えを味わうようになります。

3日(水)

みことば整理される時、祈りの答えを受けます(ヘブル 4:12)

サタンに勝つ御名、人間の運命を変える御名、地獄と呪いの権威から抜け出す御名は、イエス・キリストしかありません。この唯一性の奥義を持って、私の生活(職分、職業、状況)に関するみことばと、未来に対するみことばを整理することが重要なのです。

4日(木)

私の考えが祈りの答えにそのままつながります(ピリピ 4:6~7)

自分自身の考えを点検して決める時は、神様のみことばを確認して、専門家あるいは、尊敬するリーダーや牧師の意見を参考にした方が良いでしょう。そして、みことばを握って祈るのが重要です。その中で重要な答えを見つけて味わわなければなりません。

5日(金)

生活の節度と祈りの答え(ヨハネ 1:2)

祈りの答えがないと恨む前に、私の人生の規律を点検してみなければなりません。朝型(余裕)生活、運動、時間管理(一人で)、専門性、言葉、経済(献金)、伝道に関する考えと体質が一生つながらなければなりません。そして、毎日、自分の生活を点検しなければなりません。

6日(土)

祈りの答えの科学的な根拠(詩 1:1~6)

私たちのからだは寝る時に回復して、私たちの脳は黙想する時、力を得るようになります。祈る時間は、聖霊が働く時間です。定刻祈りは私を、常時祈りは環境を、礼拝祈りは私のすべての現実と限界を越えるようにさせます。最も良い時間に、祈りのスケジュールを組むのが重要です。

週間メッセージ

産業宣教 | 不利な状況と答え(使徒 1:12~14)

伝道学 | 家庭問題の中の答え(創 37:1~11)

核心訓練 | 三つの専門家(コロサイ 2:3)

聖日 1部 | 神様の前で争う人々(出 17:1~7)

聖日 2部 | 私たちが滅亡の中にいる時

(ローマ 5:1~11)

ペルソナ - 投げ捨てよ、 その仮面を

ペルソナ(persona)とは、心理学の用語で、仮面をかぶった人格を意味する。ピエロがかぶった仮面に由来した言葉であるだけに、言葉どうり自分の実体は隠して、また別の自我で生きていかなければならない現代人の苦悩のようなものが染み出してくる言葉であるようで、語感からして悲壮だ。しかし、はじめに心理学者カール・ユングがペルソナと言った時は、だいぶ肯定的な側だったようで-専門家ではなから、よく分からないが-自分自身の本来の姿と社会が要求することの妥協点に到達するようにさせる適応力のような意味に整理されている。とにかく、頭を痛くさせる心理学を離れて、簡単に説明しようとするなら、ペルソナという仮面をかぶって大部分の人が「格好つけ」病にかかって生きているということだ。人々に認められようと、内面の率直な本能と要求は深くと埋めておいて「人々が作っておいた枠組みと基準」に自分を合わせていくための苦闘が、熾烈であればあるほど成功する事もでき、認められる事もでき、さらには尊敬の対象になりうる。そうするうちにある日、自らの意向であろうと、他意であろうと、その仮面がはがされる日がくれば、人々を驚かせたり、失望させたりして、うわさにされて消えていくようになるのだろう。社会的に成功した人であるほど、その仮面の重さは、もっと重い場合もあって「格好つけ病」の兆候も、より一層、深刻なこともある。

ところで、かつてこの仮面を投げ捨てた勇敢な女性がいた。テレビがなかった私の幼い時期には、他の世の中の話の聞ける唯一の通路としては、童話の本以外ではラジオであった。夕食を片づけて、家族みんなが囲んで座って、耳を傾けて聞いたラジオ連続ドラマは、おもしろかったが、その小さい箱の中に、人が入っているようで、私も親指姫になって、その中に入りたくなったりもしていた。その時、その時期、小学校の幼い女の子の耳に衝撃的に迫ってきて、今でも忘れられない一人の女性の絶叫、その苦しい悲鳴、酒におぼれて道端に捨てられた一人の女性の悲痛な声の主人公は、韓国最初の女流画家、日本が強制支配をしていた時期に生きていたナ・ヘソクであった。当時のある有名人の表現によると、愛が欲しい病になったこの女性は、社会が女性に要求する「良妻賢母」の仮面をかぶらないと泣き叫んだのだ。考えのとおり、思いのままに素直に生きると言って、パリでロマンチックな愛に陥って、



イラスト_ユン: スルギ

一人の女性としての自由と解放を主張したが、結局、社会も家族も、彼女が愛した恋人さえも彼女を捨てて、結局、みじめに死んでしまった。

一方、聖書にも、尊敬されて愛されたイスラエル王が逸脱したことが細かく記録されている。他でもないダビデ王だ。音楽と詩に優れていたロマン主義者、神様を愛した彼は、目が美しく、顔が良かったと聖書は話している (bright-eyed, good looking I サムエル 16:12)。イスラエルの誠実な羊飼いで王であった彼は、ある日、仮面を投げて、はなはだ美しく

て思慮深い女性 (stunningly beautiful サムエル 11:2~3、I 列王 1:15~31) パテ・シェバと愛に陥った。愛する女の夫、忠誠にあふれる臣下のウリヤを間接的に殺すほど、彼は本来の自分の隠された本能をすさまじく表わした。そして、仮面を投げ捨てた瞬間、彼のまた別の苦しみは始まった。それは人々の前だけでなく、神様の前での絶叫であった。

「神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください...私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました...神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。」(詩篇 51:1~12)

誰でもかぶっている仮面「格好つけ」病にかかって、また別の自我を作って自分をだますペルソナの後には、創世記3章の体質と気質が、陰湿で凶悪に隠されている。恥かしい欲求を、いちじくの葉で隠そうとするアダムとイブの苦闘、神様を離れて不順従の中でサタンのわなに陥って、エデンを喪失した私たち人間の姿ではないか(創世記 3:7)。不十分な木の葉では完全な解決策にならず、羊をつかまえて血を流して、皮の衣を作って着せられた神様の愛(創世記 3:21)、その愛を知っていたダビデは、神様の前で寝床を濡らす涙でひざまずき、彼は神様のあわれみに力づけられて、パテ・シェバのからだを通してソロモンを産んで、メシヤ、キリストの血統を続けさせたのだった。これが悲運の女性ナ・ヘソクとダビデ王との違いだ。今日、「格好つけ」病に引っ張っていく私たちの仮面を脱いで投げよう。ただ、人の前ではなく、神様の前で。

文_キム・ユスン(随筆家)

* 相談したい方はこちらまで連絡してください